

平成28年第1回羽村市議会（定例会） 一般質問通告項目一覧表

| 発言順 | 議席番号 | 議員氏名 | 質問項目 | 質問日 |
|-----|------|---------------|---|------|
| 1人目 | 6番 | 富永訓正 (60分) | <p>1. 高齢者が安心できるまちへ</p> <p>(1) 市内の高齢者人口と世帯の現状について</p> <p>①平成24年度～26年度の高齢者人口、高齢者のみ世帯数、一人暮らし高齢者世帯数を聞く。</p> <p>②平成26年度の一人暮らし、高齢者のみ世帯数のうち、認知症やその疑いがある人数を聞く。</p> <p>(2) 市内における緊急通報システムと火災安全システムについて</p> <p>①それぞれのこれまでの申請件数と、設置件数を聞く。</p> <p>②設置条件の緩和等への考えを伺う。</p> <p>(3) 一人暮らしや高齢者のみの世帯に対し、また、認知症やその疑いがある人がいる世帯に対しての見守りについて</p> <p>①日頃、家庭を訪問する機会が多く見守りに協力していただいている郵便局、新聞店、生活協同組合、牛乳販売店などの事業者との連携は現状どのようになっているか。また、他の事業者等とも連携の拡大を図ってはどうか。</p> <p>②見守り等にて、セキュリティ事業者などの民間活用を考えても良いのではないか。</p> <p>③高齢者の在宅生活の安心・安全を提供するために、地域に高齢者を見守る拠点を設け、高齢者からの相談受付や生活実態の把握、関係機関と連携した見守り等を行う、見守りサポーターの養成や高齢者見守り相談窓口設置事業（旧シルバー交番設置事業）について、平成25年第1回定例会でも質問したが、その後、どのような展開が図られてきたか。</p> <p>④成年後見制度へのニーズの増加に伴う取組みをどのように図っていくか。</p> <p>(4) 高齢者の単身または高齢者のみ世帯における賃貸住宅への入居しやすい環境づくりや条件整備をどのように考えるか</p> <p>(5) 高齢者の交通手段について</p> <p>①市内での、申請額1,000円、20,510円それぞれのシルバーパス保有者数を聞く。</p> <p>②コミュニティバス「はむらん」の、ますます利用しやすい運行ルート、運行ダイヤの見直しについて市はどのような考えか。</p> <p>③シルバーパスが利用可能なコミュニティバスが都内にはいくつかある。市内でも日常の交通手段として「はむらん」を利用される高齢者の方も多くなか、シルバーパスを「はむらん」で使用できるようにしてほしいとの声を聞く。利用できるように都に働きかけてはどうか。</p> <p>④現在の回数券以外にシルバーパス的な仮称「はむらんパス」を創設してはどうか。</p> | 3月1日 |

⑤「シルバーパス」そのものの存在を知らない方が多くいると聞く。民間バスでの広告や案内ガイダンスなどを行なっている事業者もあると聞いているが、市内でも広報紙やウェブサイト以外に、「はむらん」車内や、実際に利用できる交通機関内での広報を働きかけてはどうか。

2. 羽村市の創生に向けて

(1)1990年代以降、企業の経営戦略としていわれてきた「選択と集中」。羽村市の創生計画の巻頭にも『「選択と集中」の考えのもと羽村市の地方創生を推進していく』とある。羽村市での「選択と集中」とはどのような考えか伺う。

(2)人口減少に対し、出生率の上昇、若い世代の流出減少、市内への流入増加、定住促進などへの取組みは、どれも欠くことができず課題は多く多岐にわたることから伺う。

①市内での居留意向の割合が低いのではないかと。その要因をどのように捉えるか。

②若い世代の定住に繋がるポイントをどのように捉えるか。

(3)職住近接の街として、羽村市への生産年齢人口の流入、定住促進には、住宅施策も重要と考え、伺う。

①従来、このような視点からの住宅施策はあったか。

②市内の空き家、集合住宅等の空室状況はどのようにになっているか。

③築43年ほどが経ち、高齢化率も高いUR羽村団地だが、エレベーターがなく高齢者が不便を強いられている。UR羽村団地の将来的な計画をどのように聞いているか。また、若い世代を多く呼び込むためにも建替え・大規模リニューアルなどの大幅更新を働きかけてはどうか。

④市内での新築住宅購入への助成制度が検討されている。新築に限らず、中古物件への適用もあわせて検討すべきと考えるがいかがか。

(4)ニーズ調査からも駅周辺の活性化、利便性の向上が求められていることについて伺う。

①羽村駅自由通路が今後拡幅される。羽村の魅力発信の場となり得る駅前や駅周辺の整備をどのように進めていくか。

②駅前周辺など、将来的なまちづくり構想を、どのように進めていくか。

(5)今までも多摩川沿いを活用した広域的なレンタサイクル事業の提案をしてきた。また、1月に会派で瀬戸内しまなみ海道の先進的な取組みを視察した。市内多摩川沿いでのサイクリングステーションの早期整備に向けての取組みを望むがいかがか。

(1) 利用されずに廃棄されてしまう「食品ロス」削減への取組みについて

- ① 食品ロスに対する市の認識を伺う。
- ② 利用されずに廃棄されている食品など、市の把握している問題点はどのようなものか。
- ③ 食品ロス、食品廃棄物を減らすため、関係団体と連携し、市民、事業者などへの啓発が必要では。
- ④ 備蓄品や余剰在庫など、販売できない食品を企業から寄贈してもらい、必要としている施設や団体に無償で提供する「フードバンク」や「フードバンク協議会」の取組みが進められているが、市は食品ロスに対し取組みをどのように進めていくのか。

(2) スマート交通システムのさらなる推進について

- ① 羽村市が発案し企業のサポートで開発した CO₂ 排出ゼロのスマート交通システム AZEMS (エイゼムス) は、パッケージ化された独自のシステム技術であり、このシステムの特許や商標登録を取得する必要があるのではないか。また、ほかの自治体からの要請による技術提供は無償なのか。
- ② CO₂ 削減に向け、急速充電器を利用した電気自動車のカーシェアリング事業などが考えられるが、さらなるスマート交通システムの推進をどのように図っていくのか。

(3) 再生可能エネルギー、省エネルギーの推進に向けて

- ① 今後、小・中学校に太陽光発電と蓄電池が設置予定だが、どのように活用するのか。
- ② 街路灯の LED への取り替え事業について
(ア) 昨年度より、街路灯の LED への取り替え事業がスタートし、当初 3 年の予定が 6 年間での取り替えとなったが、すでにかかった設置費用と、これからかかる設置費用は。
(イ) これまで、CO₂ 削減のため初期費用がかからず、設備の保守や維持管理までも事業者が包括的に行う「エスコ事業」を提案してきた。街路灯の LED 化にエスコ事業を導入した場合のメリット、デメリット、費用対効果を検証し、効果があれば実施してはどうか。

2. 羽村市産業振興計画について

(1) 工業、商業、農業、観光の各分野の連携事業について

- ① 羽村市地域産業振興懇談会が行ってきている創業支援事業とは、どういう分野でどのような連携を行ってきたのか。また、その成果は何か。
- ② 新たな商品開発や、相乗的な産業全体の活性化に向け、工業、商業、農業、観光などの各分野が連携した定期的な話し合いを設けてはどうか。

3 人目

15 番

濱 中 俊 男
(55 分)

- ③食と農の祭典である「アグリフェスタ」とは
どういう事業か。
- (2)市内産業の共存共栄について
羽村市がこれまで発展してきたのは、企業誘
致に成功した背景があるが、近年企業の撤退や
誘致が進まない現状がある。職住近接のまちを
目指すために、どのような課題があり、それに
どう取り組んでいくのか。
- (3)大型商業施設と市内商店の共存共栄について
①今後の大型商業施設の進出にともない、市内
商店への影響が課題となっている。市として、
相乗効果をもたらすような環境整備をどう考
えているのか。
- (4)シティプロモーションについて
①市の知名度を上げる取組みなどシティセール
スは、市の産業や観光などを推進するうえで
重要である。市は現状をどのように分析し、
それを強化するため具体的にどう進めていく
のか。
- ②羽村駅改札口から降りてきた人への観光案内
について、拡張された自由通路に観光案内機
能の充実をどのように図るのか。
- ③西多摩に、羽村に人を呼ぶための、近郊への
働きかけはどのように行うのか。
- ④外国人への観光案内について、平成 27 年第 1
回定例会の一般質問でも伺ったが、動物公園、
市内観光など具体的にどのように案内するの
か。また、市ウェブサイト、観光協会、商工
会ホームページ等の動画配信を充実させ、国
内外に大きく市をアピールすべきではないか。
- ⑤観光インフラ整備事業として、羽村駅西口整
備に合わせ観光案内所を駅からすぐ見える範
囲に設置し、多言語に対応する案内や、無料
Wi-Fi など整備してはどうか。

3. 被災から 5 年の節目をむかえて

- (1)羽村市はこれまで、様々な市の行事や催し等
で復興ブースを設けるなど、被災地支援を行っ
てきたが、今後もさらにこの取組みを充実、拡
大してはどうか。
- (2)被災地を忘れない復興支援の取組みとは、どの
ようなものか。
- (3)被災から 5 年の節目を迎え、被災地支援と我が
街の安全・安心に対する市長の考えを伺う。

1. 私道の整備助成について

- (1)市内の私道の現状について
①市内の私道の現状について、どのように把握
しているか。
- ②私道についての助成は現在どのようなものが
あるか。
- ③路面舗装工事（付帯する雨水排水工事含む）
について現状はどうなっているか。

3 月 1 日

4 人目

5 番

中 嶋 勝
(60 分)

- (a) 年度ごとの推移はどうか。
 - (b) 負担割合はどうか。
 - (2) 市民要望について
 - ①カーブミラーの設置や、交通標識の設置に関してはどのような要望が届いているか。
 - ②街灯（防犯灯）に関しての要望はどうか。
 - ③そのほか市民から市長にどのような要望が届いているか。その内容と件数は。
 - (3) 私道の整備助成について
 - ①街灯（防犯灯）の整備に関して助成できないか。
 - ②街灯を市で整備すると仮定した場合、太陽光発電やLEDの利用についてはどうか。
 - ③街灯整備の他市の状況はどうか。
- 2. 学童クラブについて**
- (1) 学童クラブについて
 - ①市内 12 学童クラブの設置からの年数は。
 - ②学童クラブ施設の管理はどのように行っているか。
 - ③施設面において、保護者や指導員等からどのような意見を聞いているか。
 - (2) 民間の学童クラブについて
 - ①開設の許認可はどのようになっているか。
 - ②内容はどう把握しているか。
 - ③施設数の今後の見込みは。
- 3. 国民保護計画の見直しについて**
- (1) 内容について
 - ①見直しのいきさつは。
 - ②今回予定している見直しはどういったものか。
 - ③予算の内訳は。
 - (2) 周知等について
 - ①周知はどのようにするのか。
 - ②訓練は考えられないか。

1. 安全で快適な道路維持について

- (1) これまで傷んだ道路の改修や維持保全はどのようにしてきたか。
- (2) 災害時における主要道路機能の確保はどう維持していくか。
- (3) 路面下空洞調査について
 - ①平成 26 年 8 月、試験的に空洞調査を一部道路で行った結果、一カ所の空洞が発見されたが、原因はなんだったか。また、空洞になる原因は他に何があると考えられるか。
 - ②仮に路面下に空洞があると想定した場合、災害時に備えた道路機能確保という視点からはどう考えるか。
 - ③安全上、防災上、また適切な道路管理をする上でこの路面下空洞調査の本格実施を望むがいかがか。

3 月 1 日

(4) 市役所通りの舗装状態はあまり良くない。市のメイン道路であり、重要幹線道路である。改修の要望から久しいため早目の整備を望むが、計画はどうなっているのか。

(5) 自転車通行レーンの設置と自転車ナビマークの設置要望も多い。早急な対応を望む。

2. 子育て環境のさらなる整備を

(1) 国は希望出生率を1.8と掲げた。市の出生率と目標、それに向けた取組みを聞く。

(2) 子どもへの虐待事件のニュースが後を絶たない。未然に防ぐため、保護者の精神状態や家庭環境の把握をするなど、大事に至る前段階でのサポートが大変重要になる。過去5年の相談件数の推移を伺う。また、虐待防止への取組み強化を望む。

(3) 幼・保・小の連携強化は以前より指摘されているが、訪問交流や懇談会等は実施されているのか取組みを伺う。

(4) 子どもの貧困率が高いと言われるひとり親世帯へ、資格等を身に付けられる就業支援をすることで、困窮から脱し、自立・安定した生活のもとで子育てをしてもらいたいと望むが、

①現在の市の子ども貧困率はどれくらいか。また、そのうちひとり親世帯はどれくらいか。

②市のこれまでの就業支援と今後のさらなる充実へ向けた事業の考えを聞く。

(5) 妊娠から子育てまで切れ目のない支援がワンストップで受けられる「子育て世代包括支援センター」が期待され、早期開設を望んでいるが、予定と内容を聞く。

(6) スマートフォン等ICTを活用したアプリで子育て応援をしている自治体が増えてきた。若い世代のニーズを的確に把握してそれに応えるためにも、羽村市もこの子育て応援アプリの導入を検討する価値は大いにあると思うがいかがか。

(7) 病児保育の体制整備について

①これまでも推進してきた病児保育が、いよいよわが市でも4月から始まる。安心される保護者も多いことと思う。今後の流れなど詳細を伺う。

②保育園や保護者、また病後児保育をしている園、関係施設等への周知と連携が大事になる。運営側の負担がなるべく緩和されるよう市の取組みを望む。

3. 一人一人が輝く社会へ（ひきこもり対策）

(1) ひきこもり対策について

①市民でひきこもりと言われる人数はどれくらいいると見ているか。

②本人や家族からの相談はどれくらいあり、どのように対応しているか。

③市内及び近隣に家族会のような団体や支援しているNPO法人等はあるか。あれば、それら団体に対し市の支援が必要ではないか。

④ひきこもりは、複合的な課題を抱えていることから制度の狭間に陥らないような対策が必

5 人目

12 番

小 宮 國 暉
(60 分)

要である。そこで生活困窮者自立支援の視点からのサポートはどうなっているか。

- ⑤ひきこもりから、まずは地域に一步踏み出せるような、地域の支援者の方と交流ができる拠点や仕組みづくりができないか。
- ⑥一人一人が輝く社会へ、ひきこもりから自立への支援は大事な事業である。拠点となる部署を明確化する必要があることから、市ではどこの部署が中心になって「ひきこもり地域支援センター」的な対策を講じていくのか。

3 月 1 日

1. 羽村市版地方創生策の加速化を図れ

- (1)羽村市は、平成 26 年度から平成 27 年度にかけて、国の地方創生交付金をどのような事業に活用してきたのか。
- (2)これまで取り組んできた羽村市の地方創生事業について、P（計画）・D（実施）・C（検証）・A（措置）管理サイクルの中での、国が提唱する重要業績評価指標（K P I）の達成度をどのように捉えているか。
- (3)羽村市が地方創生事業として取り組んできた官民連携の産業活性化策について、商工会をはじめ、市内の事業者からは、どのような意見が寄せられているか。また、寄せられた意見をどのように反映していこうと考えているか。
- (4)羽村堰周辺の桜並木は都内でも有名な観光名所となっている。平成 20 年 9 月議会で指摘した桜の木の保全と植栽計画について、今般東京都水道局では、「玉川上水路サクラ更新計画」を策定し樹木の更新を図っていく考えが示されている。羽村市にとって重要な観光資源であるこのサクラ更新計画が羽村市版の地方創生策として、どのように関わっていく考えか。
- (5)平成 28 年度からの長期総合計画の実施計画において、「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」を契機に、地域経済の活性化を図るため、西多摩地域の自治体と連携し、海外選手団の事前キャンプ地、応援団の滞在地、観光地及び訪問地と選ばれるための事業を展開していくことが記されているが、どのような取り組みを進めていこうと考えているか。
- (6)国の補正予算である「地方創生加速化交付金」や「地方創生推進交付金」について、羽村市では、どのような事業に活用していく考えか。また、国の平成 28 年度予算審議と並行して、地方創生事業は羽村市の平成 28 年度当初予算に、どのように盛り込まれているか。

2. 羽村駅西口地区の整備と今後の事業展開（第 2 回目）

- (1)しらうめ保育園周辺の整備は、西口地区整備の必要性と課題を如実に表しているモデル地区であるとの視点から、以下質問する。

- ①しらうめ保育園周辺整備の進捗状況と今後の工事等のスケジュールは。
 - ②この整備により、交通環境や上下水道などの施設整備の面で改善される点は何か。
 - ③しらうめ保育園の民営化が進み、ソフト、ハード面での完成までの間、現状付近での交通環境などの安全対策が必要と思われるがいかがか。
- (2)羽村駅西口駅前周辺の整備について
- ①羽村駅前周辺整備の進捗状況と今後の工事等のスケジュールを聞く。
 - ②駅前の整備に関しては、暫定駅前広場の整備や歩道整備など、これまで様々な整備が図られてきた。市民からはどのような声を聞いているか。
 - ③駅前広場は現在暫定整備中である。広場全体の実施計画は進んでいるか。
- (3)羽村大橋周辺の整備について
- ①羽村東小学校を含め、羽村大橋周辺整備の進捗状況と今後の工事等のスケジュールは。
 - ②大橋周辺は土地の高低差が大きく難工事となり、時間もかかると思われる。より慎重な工事が必要と考えるがいかがか。
- (4)事業用管理用地について
- ①これまでに事業用として購入した土地は 27 年度末でどのくらいあるか。また購入面積のうち減歩緩和の為の必要土地面積とその他に活用する予定の面積は。
 - ②町内会への貸し出しなど土地の有効活用をさらに進める必要がある。現在未利用地（空地）との対比（箇所数、面積比）はどのようになっているか。
 - ③今後の工事や移転を進めていく中で、どのように活用していく考えか。
- (5)調査が予定されている埋蔵文化財について、どのような保護、記録を残していくか等、方針、方策は教育委員会として決められているか。また工事工程（特に道路）への影響はどのように考えているか。

3. 障害者スポーツ推進に向けた新たな取組みについて

- (1)障害者スポーツの現状としては、毎年6月に開催される障害者スポーツレクリエーションのつどいがあり、障害者施設などにおいてもレクリエーション活動などが行われていると聞いている。しかしながら定期的な活動は行われてなく、羽村市スポーツ推進計画が策定された今、市としてどのような形で障害者スポーツを推進していくのか。
- (2)2020 年に開催される東京パラリンピックは、東京が世界で唯一、2 回目のパラリンピックを開催する都市となる。東京オリンピック・パラリンピック組織委員会においても、開催後のレガシーを後世に残していこうと様々な取組みが

6 人目

8 番

大塚 あかね
(60 分)

計画されていると聞き及んでいる。羽村市としては、東京パラリンピック開催に向けて、どのような取組みを行っていくのか。

- (3) 新しい取組みとして行う場合、障害者福祉の関係団体・社会福祉協議会、そよかぜ、はむすぼ、体育協会等の関係団体との連携協力が不可欠であり、競技のノウハウについては障害者スポーツ協会等への研修をすることも必要と思うがいかがか。
- (4) 毎年東京都が行っている障害者スポーツ大会（東京羽村ライオンズクラブ参加応援協力）への見学等、各種啓発活動も重要と思うがいかがか。

3 月 2 日

1. 安心して自宅で最期を迎えることができるためには

- (1) 「住み慣れた地域で安心して最期まで暮らし続ける」ためには在宅医療・介護を担う人材の確保が必要である。羽村市は、そのための人材確保をどのように図っていくのか。
- (2) 自宅で安心して最期を迎えるためにはどういった準備が必要なのか。
- ① 在宅医療・介護を受けていて、自宅で最期を迎えた場合、「異状死（検案事例）」とならないために、家族や本人が準備しておくことは何か。
- ② かかりつけ医に受診していても、「異状死（検案事例）」となることがある。そうならないために、家族や本人が準備しておくことは何か。
- ③ 突然死の場合はどのように扱われるのか。
- (3) 「一人暮らし」の方が「自宅で安心して最期を迎える」ために準備しておくことは何か。
- (4) 「自宅で最期を迎える（在宅死）」については情報が少なく、不安や負担を感じる家族も多い。家族の不安や負担を取り払うために「自宅で最期を迎える」ことについて、情報提供や理解促進のための施策が必要ではないか。
- (5) 自宅で人生の最期を迎えるには葬儀についての、準備や心構えが必要である。平成5年にコミュニティ振興公社（当時）から発刊された「羽村のお葬式」の改訂版を発刊してはいかがか。

2. 「2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」成功に向けた羽村市の取組みは

- (1) オリンピック・パラリンピックの推進に向けた市町村の担当部課長会について
- ① 設置されているのか。
- ② 具体的にどのような活動を行っているのか。
- (2) 東京都の「大会成功に向けた区市町村支援事業」の活用について
- ① 補助金を活用し、実施予定している事業について伺う。
- ② それぞれの事業の内容と開催時期等は。

7 人目

1 番

高 田 和 登
(60 分)

(3) スポーツセンターを事前キャンプ施設として活用することは検討されているか。

3 月 2 日

1. 学校における避難訓練について

(1) 学校公開と避難訓練・集団下校の組み合わせについて

- ① 市立小中学校における、各種の避難訓練の平成 26 年度の平均実施回数を問う。
- ② これまでに市立小中学校で次の組み合わせで同日に実施した事例はあるか。
(ア) 避難訓練と集団下校
(イ) 学校公開と避難訓練
(ウ) 学校公開と集団下校
- ③ 他の自治体や学校などの、学校公開と避難訓練と集団下校のいずれかを組み合わせで実施した事例を調査したことはあるか。
- ④ 調査した結果、羽村市に参考になる事例はあったか。

(2) 松林小学校の事例について

- ① 松林小学校は来年度以降も継続的に実施する予定か。
- ② 松林小学校以外の小中学校でも、松林小学校の事例を水平展開して、学校公開と避難訓練・集団下校を組み合わせた訓練を実施すべきと考えるが、いかがか。
- ③ 学校公開参観者、つまり保護者の避難行動を具体的に記載した通知を、事前に各家庭に配布すべきと考えるが、いかがか。
- ④ 避難訓練のため、体育館に集合した全児童と学校公開参観者に対し、家庭にいるときに災害が発生した場合を想定し、消火器の使い方や応急救護の方法など、児童と保護者が一緒に学校での防災訓練をすべきと考えるが、いかがか。
- ⑤ 学校公開と避難訓練・集団下校を学校と P T A の共同開催事業にして、P T A の協力を得るべきと考えるが、いかがか。

(3) 家庭での防災教育について

- ① 「子どもたちの命を守る」という視点に立てば、学校教育、特に親学の一環として、保護者への防災教育を、学校公開という保護者が学校に集まる機会を活用して、実施することは必要と考えるが、いかがか。
- ② 各家庭で防災について話し合ったこと、実際に準備していることなどを作文にすることは、効果が高いと考えるが、いかがか。

2. 健康寿命の延伸策について

(1) 羽村市の老人クラブについて

- ① 羽村市の 60 歳以上の人口、老人クラブの会員数と平均加入率を問う。

- ②老人クラブの平均加入率は都内 49 区市中何番目かを問う。
 - ③老人クラブの加入率のさらなる向上のための具体策を問う。
 - ④老人クラブの存在を周知するために 60 歳以上の方全員に入会案内を配布することを検討すべきと考えるが、いかがか。
 - ⑤上記入会案内には、老人クラブの名称、所属する町内会・自治会、老人クラブ会長の氏名、住所、電話番号を一覧表にして添付すべきと考えるが、いかがか。
- (2)介護予防リーダーとまいまいず健康教室の現状について
- ①羽村市の介護予防リーダーの制度は東京都内 49 区市で何番目に早かったか。
 - ②これまでに介護予防リーダーの研修を受講した人数、平均年齢、男女比を問う。
 - ③このうち介護予防リーダーとして活動している人数、平均年齢、男女比を問う。
 - ④まいまいず健康教室の 2014 年度、及び 2015 年度の会場数、介護予防リーダー数、健康教室参加者数を問う。
- (3)介護予防リーダーと健康教室参加者の増加策について
- ①健康教室参加者はどのようにして選考しているのか。
 - ②健康教室参加者の年齢制限を緩和することはできないか。
 - ③健康教室参加の希望者全員を受け入れることはできないか。
 - ④介護予防リーダーをさらに積極的に養成する計画はないか。
 - ⑤介護予防リーダーを有償ボランティアにすべきと考えるが、いかがか。
- (4)歌に合わせて体を動かす介護予防体操について
- ①青梅市が考案したような、歌に合わせて体を動かす介護予防体操は良い試みと考える。特に、羽村市のように健康教室を複数会場で実施する場合、ある程度、統一していた方が望ましく、導入すべきと考えるが、いかがか。
- (5)介護予防リーダーとスポーツリーダー登録者について
- ①羽村市スポーツリーダー登録者に介護予防リーダーの育成研修への参加の願いを送付することは介護予防リーダーの増員策として有効と考えるが、いかがか。
- 3. 町内会・自治会の加入率向上について**
- (1)町内会加入世帯の現状分析について
- ①羽村市内の一戸建て住宅・分譲集合住宅・賃貸集合住宅の棟数と居住する世帯数を問う。

8人目

7番

鈴木拓也
(60分)

- ②各町内会に対し、次の情報収集を依頼すべきと考えるが、いかがか。
 - (ア) 一戸建てに居住する世帯数とそのうち町内会に加入している世帯数
 - (イ) 分譲集合住宅に居住する世帯数とそのうち町内会に加入している世帯数
 - (ウ) 分譲集合住宅で、管理組合があり、その規約等で町内会加入を義務付けている世帯数
- (2) 転入者への丁寧な町内会加入促進活動について
 - ① 転入届の窓口で、町内会の名称・町内会長の氏名・住所・電話番号を記載した一覧表を転入者へ手渡すべきと考えるが、いかがか。
 - ② 転入届の窓口で、具体的に所属する町内会の名称、町内会長の氏名、住所、電話番号を記載した書類を転入者へ手渡すべきと考えるが、いかがか。
 - ③ 転入者の同意を得た上で、町内会に転入者の情報を提供すべきと考えるが、いかがか。
- (3) 住宅の建築・開発段階からの加入促進活動について
 - ① 建築・開発段階での情報を町内会に伝える仕組みを検討すべきと考えるが、いかがか。
- (4) 加入者がメリットを実感できる施策について
 - ① 羽村市で、町内会の加入世帯にカードを配布し、商店等に提示することで優待サービスが受けられる制度を検討すべきと考えるが、いかがか。
 - ② 町内会員限定の行事を企画し、町内の掲示板等で非会員にもPRすることは、差別化を図る意味で効果的と考える。行事を魅力的にするために、例えば市所有のバスの無償貸し出しをすべきと考えるが、いかがか。
 - ③ 町内会の全世帯に、市の負担で、例えば2000円分のにぎわい商品券を配布すれば、町内会に加入しているメリットを実感できると共に、市内商店の活性化、にぎわい商品券のさらなる普及が図れると考えるが、いかがか。
- (5) 町内会がメリットを実感できる施策について
 - ① 町内会への補助金を支給する上で、均等割や世帯数割の割合を下げ、会員加入促進の努力が報われる、会員数割の比率を上げるべきと考えるが、いかがか。
 - ② 加入者数を増加させた町内会及び加入率を向上させた町内会に対し、賞状と金一封を贈呈する制度を導入すべきと考えるが、いかがか。

1. 介護保険の変更準備はどう進んでいるか

- (1) 要支援1、2の人へのサービスについて
 - ① これまでどのような検討がなされてきたのか。
 - ② どういうサービスを行うことになったのか。
 - ③ サービスの提供者は誰になりそうか。サービスの質の保証はどうか。

3月2日

9 人目

10 番

橋本弘山
(60分)

- ④必要なサービスを必要な人が受けられる制度になるのか。
- ⑤制度移行に向けたスケジュールはどうか。
- (2) 特別養護老人ホームについて
 - ①入所が原則要介護3以上の人となった。どういった影響が出ているのか。
 - ②待機者の状況はどうか。
 - ③施設利用低所得者への減額制度はどう運用されているか。
- (3) 介護報酬の引き下げにより市内事業者にはどのような影響が出ているのか。
- 2. 「特別支援教室」をより良い制度にするために**
- (1) これまでの「通級指導学級」と、新たな「特別支援教室」とは何が変わることになるのか。
- (2) 利用する子どもの人数はどう変わるのか。
- (3) 利用できる時間数はどう変化するのか。
- (4) 通級指導学級と同一のプログラムを提供できるのか。新たに加わる内容、できなくなる内容はあるのか。
- (5) 教員の人数はどう変わるのか。
- (6) 新たに配置される予定の「特別支援教室専門員」について
 - ①配置人数、時間はどうか。
 - ②どんな仕事を担うのか。
 - ③どういう人が配置されるのか。
- (7) 施設・教材は十分に確保されるのか。
- (8) 担任との連携はどう図られるのか。
- (9) 保護者との連携、相談などはどう図られるのか。
- (10) 完全移行までは時間的猶予も設けられている。市のスケジュールはどうか。

1. 水防訓練について

- (1) 6月の水防訓練計画の策定はどこが行うのか。
- (2) いつ頃までに計画ができあがるのか。
- (3) 前回は、多摩川上流にどの位の雨量を想定した訓練であったか。
- (4) 実際にその想定雨量であった場合、市内ではどんな被害が考えられるか。
- (5) 議会でも過去に指摘のあった越水予想危険箇所や、洪水・土砂災害ハザードマップに示されている危険箇所等、もっと実践に則した訓練の実施を提案するが、市の考えはどうか。
- (6) 住民の避難誘導に関しての訓練も必要と考えるがいかか。
- (7) 過去の訓練は消防署主導で進められ、訓練のマンネリ化の感が否めないが、9月に実施される総合防災訓練も含め、もっと様々な関係者の意見を訓練に取り入れるべきと考えるがいかか。

3月2日

10 人目

4 番

富 松 崇
(50 分)

2. 身寄りのない市民の終焉への対応は

(1) 市内に在住する身寄りのない単身者の方が、終焉を迎えるケースについて

- ① 亡くなられた場合、どこが引き取るのか。
- ② 火葬、遺骨の処分はどこが行うのか。
- ③ 死亡届をはじめ、様々な手続きはどこが行うのか。
- ④ 住宅、家財をはじめ、様々な財産処分はどこが行うのか。
- ⑤ その他関連した事項について

(2) 高齢化社会を迎え、このようなケースは多くなるものと見込まれるが、どのように対応していくのか、羽村市の今後の対策について伺う。

3. 羽村市国民保護計画について

(1) 今回の朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の弾道ミサイル打上情報に対して、どのような備えを行ったのか。

(2) 第五次長期総合計画実施計画（平成 28 年度～30 年度）において、国民保護計画の変更が予定されているが、具体的な変更内容は。

(3) 現行の羽村市国民保護計画における市の責務の主な内容は、住民の避難誘導となっているが、避難誘導に際し要配慮者への対応については、どのように考えているか。

(4) 現在、羽村市国民保護計画は住民の認知度が低いと考える。さらに周知する必要があると考えるが市の考えは。

1. はむらスタイルの実現に向けて

(1) 地域コミュニティの強化について

- ① 町内会連合会や市民活動団体、商工会等の事業者団体や観光協会、子育て中の保護者の組織等、市内で活動している団体間の連携・情報共有が重要だと思うが、市の考えは。
- ② 団体間の連携・情報共有を図るための場所を作る考えは。
- ③ はむらスタイルを実現していくために、行政としても部署間の連携強化が必要だと思うが、連携を円滑にするための調整役の部署を設ける考えは。

(2) 環境の充実について

- ① 駅前等の人が多く集まる場所に団体等が集える、情報交換ができる場所を作る考えは。
- ② 街路灯の設置要望はどのくらいあり、要望に対して設置が困難な場所はどのような場所か。
- ③ はむらの魅力創出のために公共施設での Wi-Fi インターネットアクセス環境の提供は行われているか。
- ④ はむらの魅力創出のために庁舎・ゆとろぎ・図書館に Wi-Fi 環境を整備する考えは。

3 月 2 日

11 人目

18 番

門 間 淑 子
(60 分)

- ⑤はむらの魅力創出のために市内商店会や商工会と連携して、市内での Wi-Fi 環境の整備をする考えは。
 - ⑥来年度検討される、定住促進を図るための「はむら de いい家助成制度」は、新築戸建て住宅や分譲マンションなどを購入し、市内へ転入する人に対する助成制度のようだが、市内に住む親と同居する場合等のリフォームや建替えや、親を呼び寄せ同居する場合等にも対象となる制度を考えるべきでは。
- (3) 情報発信の充実について
- ①地域コミュニティの強化には町内会・自治会や子育て中の保護者の組織等の団体の活力が重要だと思うが、それぞれの情報発信力を充実させる支援を行う考えは。
 - ②一つのウェブサイトに行行政情報や観光情報、子育て関連の情報や市内事業者の情報等を集約して情報発信することが必要だと思うが、市の考えは。

1. 昭島市からの西多摩衛生組合への加入要請について

- (1)昭島市長からの加入要請は1月28日付けでなされているが、それ以前の協議や情報収集はどのようななされてきたか。
- (2)構成市町で、対応について前向きに協議するとしているが、受け入れを前提としているのか。
- (3)西多摩衛生組合構成市町への要請は、昭島市の住民合意に基づきなされたものと受け止めているか。
- (4)西多摩衛生組合が行う調査・検討結果は、構成市町に対し、いつ報告されるのか。
- (5)議会や住民への説明は、今後、どのようになされるのか。

2. マイナンバー制度について

- (1)個人番号通知カードの返戻状況について
 - ①受け取り拒否、保管期間が過ぎて戻されたもの、宛先なしで戻されたものなど、それぞれ何通か。
 - ②封書による市からのお知らせは、いつ出されたか。
 - ③本人に届かない通知カードは、現在、何通残っているか。
 - ④通知カードの保管と本人確認作業は、今後、どのように進められるのか。
- (2)個人番号が未記載であっても申請書類は受け付けるのか。
- (3)個人番号カードの発行数は、現在、何枚か。
- (4)リース契約で導入する顔認証システムに保管された個人情報、リース解約時にどうなるのか。
- (5)サイバー攻撃に対するセキュリティ対策は、どこまで進んでいるか。

3月2日

1. 生涯学習推進の具体策は

- (1) 第五次羽村市長期総合計画の前期基本計画の目標では、生涯学習センターゆとろぎの利用率は 55.0%、図書館の貸出件数は 445,075 件とされていたが、平成 26 年度の現状と達成率は。
- (2) 第五次羽村市長期総合計画の中では、今後の方向性として、「1. 学習活動の活性化」「2. 学習成果の積極的な活用」とあるが、抽象的で市民にも理解されにくいと考える。どういう具体策を考えているか。
- (3) 図書館では、ビジネス支援コーナーの設置が予算化されようとしているが、その内容と周知方法を問う。
- (4) ゆとろぎの利用率の目標を 55.0%としたその根拠は何か。その目標数値と比較して、利用率の低い場所はどこか。また、あまり使われていない場所について何か改善の具体策を考えているか。
- (5) 予算や人材をより投入して、多くの皆様に親しまれる真の生涯学習の拠点として、市民のみならず、多くの皆様に利用していただけるものとなるよう今後の方向性を示せないか。

2. 学校教育は制度論ではなく、教育内容の充実の方向性を示そう

- (1) 羽村市教育制度変更の中で、自ら進んで学ぶ子ども達は増えたと考えているか。
- (2) 羽村市教育委員会では、勉強嫌いの子どものデータを把握しているか。
- (3) 他の自治体で、子どもの教育格差を埋める様々な施策が始まっているが、羽村市では、子ども達の教育格差をなくすどのような施策を考えているか。
- (4) 羽村市独自の学力向上施策の予算総額はいくらか。
- (5) 羽村市は子ども達のスマートフォンや携帯電話依存の現状や今後の対策の必要性をどう考えているか。
- (6) 羽村市の教育理念を解りやすく示し、子どもや保護者、教育関係者もその理念を共有すべき時ではないか。

3. 議員や住民等からの要望・提言・働きかけの記録をどう残すべきか

- (1) これまで、議員や諸団体、市民からの要望について、要望者の氏名、要望内容、行政の対応などを記録しているか。記録しているとすれば、年間、それぞれ何件ぐらいの要望があるか。
- (2) 記録制度を条例や規則、要綱などで定める自治体もあるが、羽村市は記録制度の例規制定に対してどのように考えているか。
- (3) 記録制度を例規制定している自治体でも、個人情報という理由で議員名は非公開としている場合があるが、羽村市は記録制度における議員名

| | | | | |
|-------|------|--------------------------|--|---------|
| 13 人目 | 3 番 | 印 南 修 太 (60 分) | <p>の公表についてどう考えているか。</p> <p>(4) 議員が行政に対する窓口となって、市民要望を受け、隣近所の細々とした問題等についても伝える事例が多いが、行政側でも工夫が必要ではないか。</p> <p>(5) 団体や市民からの要望について、その実現が難しい場合は、その理由をきちんと説明し、市民自治の醸成に努めるべきではないか。</p> <p>1. 羽村市が「消滅可能性都市」にならないために</p> <p>(1) 人口ビジョンについて</p> <p>① 羽村市が将来的に 5 万人規模の人口を維持しようとするのはなぜか。</p> <p>② 合計特殊出生率を 2.20(平成 52 年以降)までどのように引き上げるのか。</p> <p>(2) 子どもの就学前環境について</p> <p>① 第五次長期総合計画実施計画にある「幼児教育の充実」とは具体的に何か。</p> <p>② 幼稚園・保育園・小学校の連携は進んでいるか。</p> <p>(3) 子育て支援がより充実するために</p> <p>① 子育て応援メール「羽っぴー」を充実できないか。(市HPのリンクを張るなど)</p> <p>② 児童館の乳幼児の昼食時間を、正午からでなく 11 時 30 分からにできないか。</p> <p>③ 平成 26、27 年度の生涯学習センターゆとろぎ保育室の平均月間利用日数は何日か。</p> <p>④ 保育室を利用しない日は、曜日を決めて乳幼児と保護者に無料開放してはどうか</p> | 3 月 3 日 |
| 14 人目 | 16 番 | 瀧 島 愛 夫 (60 分) | <p>1. 羽村市における発達障害支援について</p> <p>(1) 乳幼児期</p> <p>① 早期発見体制の現状は。</p> <p>② 早期支援体制の現状は。</p> <p>(2) 保育園・幼稚園等での気づきへの対応は。</p> <p>(3) 入学時、保育園・幼稚園等と学校の連携、引継ぎは。</p> <p>(4) 羽村市におけるサポート体制の現状と問題点は。</p> | 3 月 3 日 |
| 15 人目 | 11 番 | 山 崎 陽 一 (60 分) | <p>1. 区画整理撤回要求第 36 弾</p> <p>(1) 区画整理は市民生活を圧迫する</p> <p>① 予算編成の考え方で区画整理による基盤整備での成長を掲げているが、何が成長するのか。</p> <p>② 地方創生計画で「区画整理で若い世代が集うまちとしてにぎわい創出」を掲げるが、具体的には何か。</p> | 3 月 3 日 |

16 人目

2 番

浜 中 順
(60 分)

- ③予算は 14 億円で 3 倍に増加。借金 7 億 7 千万円が突出している。理由は何か。
 - ④全市民一人当たり 45 万円の負担をさせる事業だ。市民理解を得られないと思うがどうか。
- (2) 30 年間の移転実施計画は、不可能だ。
- ①事業期間を今後 30 年とした理由とその根拠を聞く。
 - ②この移転実施計画の総事業費と、その算出根拠、財政的裏付けを聞く。
 - ③ 3 工区の優先順位と、1000 棟すべての移転順序、時期を記したなら、その根拠を聞く。
 - ④仮換地指定での取り壊しから、新たな住居までの期間は曳家、再築でどのくらいか。
 - ⑤年間、何棟の移転が可能としての計画か。
 - ⑥合意が得られず移転が進まなければ、事業は停滞するのか。他の地域を進めるのか。
 - ⑦羽村大橋拡幅を受けて擁壁工事をするそうだ。大橋工事計画説明はいつ、誰がするのか。
 - ⑧30 年間で事業完了は不可能だ。工事着手前に必要性、実現性の検証、仮に進めても社会経済状況の変化による事業のチェックをすべきと思うがどうか。
 - ⑨今後、事業期間、事業費の変更をするそうだがいつか。事業の見直しが必要ではないか。

2. 市政世論調査の結果から読み取れる、行政サービスの低下を聞く

- (1) 市政世論調査の目的は何か。
- (2) 調査結果はどう検証され、施策に反映されるのか。
- (3) サービス向上、後退と評価された施策はそれぞれ何か。その理由は何か。
- (4) 重要度が高いにもかかわらず、満足度の低い事業は何か。前回より改善したか。
- (5) 施策の重要度と満足度のアンバランス解消のためには、市民参加の事業仕分けをしたらどうか。

1. しっかりした就学援助で子どもの成長の保障を

- (1) 平成 24、25、26 年度の就学援助の要保護、準要保護の認定人数と児童・生徒数に対する割合はどうなっているか。
- (2) 就学援助の認定基準は、生活保護基準をもとに算出され、生活保護受給者の児童・生徒は、要保護となっている。準要保護は、生活保護は受けていないが、前年度所得が一定基準額未満であれば、認定され援助を受けられる。
 - ①青梅、羽村、福生各市の就学援助認定所得基準額はいくらか。ただし、対象家庭を父（40 歳）母（35 歳）子（14 歳）子（9 歳）の 4 人家族で借家の同一条件とする。また、26 市の中で、羽村市の認定基準額は就学援助を受けやすい位置にあるのか。

3 月 3 日

②文部科学省の平成 26 年度就学援助実施状況調査によると、就学援助認定額が生活保護基準をもとに所得換算で 26 市のほとんどは 1.1 倍以上になっているにもかかわらず、羽村市は、福生市や青梅市と同様に 1.0 倍となっていて就学援助を受けにくい。よって、まずは、最低でも所得換算の 1.1 倍にすべきではないか。

(3) 就学援助制度の中で給食費支給の比重は重い。来年度から給食費が値上げされる。保護者の負担は、その分重くなる。就学援助の該当に近い家庭に、給食費だけでも減免制度をつくるべきと考えるがどうか。

(4) 小・中学生の教育のために家庭を支援する取組みには、現在どんなものがあるか。

また、東京都の補助金事業で市の社会福祉協議会が取り扱っている「受験生チャレンジ支援貸付事業」は中学・高校 3 年生を対象に、学習塾等受講料は 20 万円を上限に、受験料は中学 3 年は 27,400 円、高校 3 年は 105,000 円を上限に、貸し付けられている。合格すれば返還が免除されることもあって、好評で毎年利用者が増えている。市の予算で貸し付け要件を拡大したり、貸付金額を増額するなどして、若者の可能性を伸ばすべきだと考えるがどうか。

2. より良い学校教育のために

(1) 小・中学校のトイレの洋式化等について

①平成 20 年（2008 年）一般家庭のトイレの洋式化普及率は 90%である。羽村市の小・中学校の洋式化普及率は 3 割以下と思われるが、市内小学校、中学校平均でそれぞれ何%か。

②計画的に洋式化をすべきと考えるがどうか。

③換気機能やタイルのはがれなどは、すぐに修理されているか。

(2) 長期総合計画・実施計画の平成 29 年度の二中と平成 30 年度の富士見小のプール改修工事について、その内容はどんなものか。

(3) 一中・二中学区での小中一貫教育に基づく、小学校 6 年生の 3 校合同移動教室について

①この取組みの成果と課題は何か。

②小学校 6 年生の移動教室は、これまで積み上げた学習活動や集団活動の集大成として子ども達が大きく成長できる大事な行事である。それをさらに、3 校合同の取組みにするにあたっては、3 校合同の事前の検討や計画づくりのために多くの時間が必要なことは想像できる。実際はどうだったか。また、事前や当日の打ち合わせの時間は確保されたのか。

③「移動教室を、あえて 3 校合同にする必要があるのか」という声が聞かれているが、どう考えているか。

1. 羽村駅西口土地区画整理事業の説明は十分か

- (1) 羽村東小校庭整備に関する説明会について
- ① 説明会は誰を対象に周知したか。
その対象は、学校が地域の中心であるという認識に立って選んだものか。
 - ② 参加者は何人か。
 - ③ どんな質問があったか。
 - ④ その場で答えられなかったものはいくつあったか。
 - ⑤ 答えられなかったものについて、その後どうしたか。
 - ⑥ 質問を想定して準備したか。
 - ⑦ 説明会は、時間が来たということで終了したが、それで理解が得られたと考えているか。
- (2) 区画整理事業の説明のあり方について
- ① 関係者に個別に説明するということで、事業の理解が得られると考えているか。
 - ② これまでに、どれだけの関係者に説明したか。
- (3) 事業の今後について
- 平成 28 年の早いうちに公表されるという事業計画は、事業の全体を示したものになるか。

2. 住居表示について

- (1) 住居番号表示板の表示状況について把握しているか。
- (2) 表示がないことについて、市民などからの声はあるか。
- (3) 表示板の発行までの手続きは。
- (4) 表示についてどのような指導をしているか。
- (5) 法令順守の面で、表示のない住居に今後どう対応していくか。

3. 計画などのその後について

- (1) 計画の管理について、第五次長期総合計画の後期基本計画策定時に検討したいとのことだった。
- ① 計画の洗い出しをしたか。結果はどうだったか。
 - ② 体系化の必要性は。
- (2) スポーツセンターの利用時間帯の見直しは怎么样了か。